

# 詩歌吟詠道流碑堂賀

詩歌吟詠道流は初代宗公林謙齋開  
創始。明治二十六年七月祖跡守御河原下  
安田牛齋正家に入塚坂回町に住。假路  
墓を守候。又西村宣雲の後を嗣ぎ、多年  
刻苦の本意性且つ幽靈行う以詠道創業  
その終ニ至り。嘗て曰く。  
全國にて人を傳教せん人の時代並吟咏  
界に著績多大なり。が昭和十七年暮春  
度越國間哈行中。由山西道喰馬鎮に  
急逝。晴国神社に合祀される。  
荷參云。生平雅緻に及門相識り。高妙を盡す  
して。是流の由來。吉野。一ノ公屋を明する  
と共に創始の信號を。云々。而斯焉。

昭和三十七年三月  
詩歌吟詠道流門第 同



を建立

吟詠  
二月酉  
西鎮に  
創業  
多年  
姫路  
松下  
部賀堂



吟道賀堂流

流祖 磯部賀堂

昭和十五年 収録

児島高徳桜樹に書するの因に題す

蒲藤 監物

踏み破る千山万嶽の煙  
鶯輿今日何れの邊にか倒る  
單蓑直ちに入る虎狼の窟  
一ヒ深く探る鮫鰐の渕  
報國の丹心獨力を嗟き  
回天の事業空拳を奈んせん  
數行の紅淚兩行の字  
桜花に付与して九天に奏す

吟道賀堂流近畿總本部

初代会長 田村賀峰

昭和五十年 収録

短歌

白鷺の城

初井しづ枝

はりま野はかすみわたりて 夢のごと  
空に浮かべるしらさぎの城

吟道賀堂流

流祖 磯部賀堂

(昭和十五年收錄)

児島高徳桜樹に書するの図に題す

斎藤 監物

踏み破る千山万嶽の煙

鶯興今日何れの辺にか倒る

单蓑直ちに入る虎狼の窟

一ヒ深く探る鮫鰐の渕

報國の丹心独力を嗟き

回天の事業空拳を奈んせん

数行の紅涙両行の字

桜花に付与して九天に奏す

吟道賀堂流近畿總本部

初代会長 田村賀峰

(昭和五十年收錄)

短歌 白鷺の城 初井しづ枝

はりま野はかすみわたりて 夢のごと  
空に浮かべる しらさぎの城



今道賀葉道  
（田村貢）

見事萬葉長歌にさうゆきの歌  
詠歌は萬葉集の歌物

踏み破る十山万歳の聲  
罵與今日何れの邊にか倒る  
半葉直ちに入る虎狼の窟  
一匕深く探る劍河の淵

頼國の丹心体力を嗟き  
四天の事業空季を奪んせん

数行の紅波兩仔の字  
桜花に付与して九天に奉す



詠歌  
白雲城  
切手  
はりま野はかすみわたりて夢のこと  
空に浮かべるしらさきの城